

400年間培われた都市力を糧に 新幹線開業を機に飛躍する 文化創造都市 高岡

新幹線開業を目前に 活気づくまちづくり

高岡市ルポの取材は昨年12月半ば過ぎに実施した。その時期、東北地方以南の日本海側各地域は爆弾低気圧の影響で天候が大荒れ。高岡市にも猛烈な風が縦横に吹き荒れ、地元の人々も「この時期としては例年にならない量」と驚くほどの降雪に見舞われていた。

だが昨年3月に全面リニューアルオープンした高岡ステーションビル「クルン高岡」(地上3階、地下1階)や、南北自由通路を兼ねた高架デッキで高岡駅と直接結ばれる駅前再開発ビル「ウイング・ウイング高岡」(地上14階、平成16年竣工)など、高岡市の新たな駅前コミュニティ拠点に目を転じると、そこには春の予兆を思わせる明るさがみなぎっていた。

クルン高岡はJR高岡駅の改札口を2階に、路面電車・万葉線の高岡駅を1階に擁

している。また各種ショッピング・飲食スペースのほか、地下1階には高岡市の各種公共スペース(ギャラリースペース、社会人対象の自主的学習スペースとして注目を集める『勉強カフェ』、カルチャー教室や交流スペースなど)が入居している。既に高岡市立中央図書館(2・3階)、高岡市生涯学習センター(1階、3・6階)、高岡市男女平等推進センター、富山県立志貴野高校(7・12階)、富山県生涯学習カレッジ(7階)など多彩な公共スペースが入居している隣接の駅前再開発ビル「ウイング・ウイング高岡」と併せ、これだけの公共施設群が都市の表玄関である中央ターミナルに直結している例は全国的にも珍しい。

そうした各種公共施設および商業施設の利用者数がかかり多いのに加えて、JR高岡駅を軸とするこれら高岡市の新たな駅前コミュニティ拠点が、外の荒天とは裏腹に、明るさや華やきに満ちて感じられたのは、3月14日

の「北陸新幹線開業」が目前に迫っているからにはかならない。万葉線横の待合室に新幹線車両の模様が展示されているのを

はじめ、駅および駅前公共施設群の随所に新幹線開業間近を知らせる華やかなポスター、のぼり旗などが設置され、イベントスペースでは関連イベントが随時行われるなど、待望久しい北陸新幹線の開業を控えた高岡市は今、文字通り「新たな春」を迎え



たかはし まさき
高橋正樹
高岡市長



国名勝に指定された「おくのほそ道の風景地—有磯海(女岩)—」

ようとしているのだ。

北陸新幹線は平成9年に先行開業した長野新幹線ルートに長野～金沢間の新規ルートが加わり、東京～金沢間が最速2時間28分で結ばれ(現在は最速3時間47分)、最終的には大阪まで延伸される。富山県内には3つの停車駅が設置され、高岡市では《新高岡駅》が新規開業する。東京都市圏・名古屋都市圏・大阪都市圏ともほぼ等距離の「感覚」で結ばれている高岡市にとって、東京・大阪と直結する北陸新幹線開業の持つ意味は非常に大きく、また幅広い。



勉強する中高生の姿も多いクルン高岡地下1階の休憩スペース

「東海道新幹線は平成26年に開業50周年を迎えましたが、その東海道新幹線開業の翌年、つまり昭和40年には、北陸新幹線(※当初は『北回り新幹線』と呼称)開業の構想が発表されていた。従って平成27年の北陸新幹線開業は、高岡市民並びに富山県民にとって、まさに50年目の大願成就なのです」

そうにこやかに語る高橋正樹・高岡市長は、新幹線開業に合わせ、JR高岡駅周辺や南へ約1.5km離れた下黒田地区に設置される新高岡駅および周辺のまちづくりなど、着々と準備が整っていく現況を『未来高岡』の形が徐々に姿を現しつつある過程」と表現する。

「本市はもともと日本海側中央部における高速道路網の結節点で、環日本海圏の交易拠点と位置付けられる総合的拠点港・伏木富山



高岡市と射水市を結ぶ路面電車・万葉線(赤のイトラムと青のドラえもんトラム)

港にも面しています。そこへ新幹線が開業することで、国内外を結ぶ交通の要衝としての求心力がますます高まり、人・モノ・情報が行き交う交流拠点都市化がより一層進むものと確信しております」

**2つの玄関口を核に
形成される未来高岡**

『未来高岡』を方向づける「人・モノ・情報が行き交う交流拠点都市化」を推進するに当たって、新高岡駅がJR高岡駅から南へ1.5km離れた下黒田地区に新設される意味はとて大きい。

高岡市のまちづくりの基礎は、約400年前(慶長14年＝1609年)に加賀前田家二代



加賀藩の藩祖・前田利家が豊臣秀吉から拝領した御所車を始まりとされる「高岡御車山祭」(重要有形・無形民俗文化財)



400年近い歴史を誇る高岡銅器



3昼夜にかけて万葉集全20巻をリレー方式でうたい継ぐ「高岡万葉まつり」(毎年10月開催)

当主・前田利長が隠居後に開始した高岡城の築城および城下町の建設にある。高岡城は前田利長の隠居城という位置付けで、加賀藩の首都・金沢のまちづくりに比べるとその分、高岡のまちづくりには、それまでの人生経験に基づいた利長の領国経営にかける思いが強く反映したものとなっている。高岡市が誇る高岡銅器や高岡漆器などのものづくり文化の伝統も、前田利長が父利家から引き継いだ豊臣秀吉から拝領した御所車を嚆矢とする重要有形・無形民俗文化財高岡御車山祭などの伝統行事も、すべては「その時」から始まっているといえる。時は下って明治31年に北陸線・高岡駅が開業する際、鉄道軌道は、江戸時代から続く伝統的な町並みや中心市街地の南端

部に敷設されその南側(現在の瑞龍寺口側)には国宝・瑞龍寺および瑞龍寺への参道、国史跡・前田利長墓所があるものの、市街地としての開発は長い間遅々として進まず、昭和40年代に入ってからようやく区画整理事業などを導入しながら少しずつ住宅地の整備が進められてきた。

北陸新幹線・新高岡駅はJRR高岡駅から瑞龍寺を挟んでさらに南側にあるため、今後、現高岡駅の瑞龍寺口(南口)側から、新高岡駅にかけてのまちづくりが急速に進む可能性が高い。地域全体の活性化を促す原動力になることも期待される。

「富山県西部で唯一の新幹線駅となったため、新高岡駅には新幹線の沿線と本市の周辺

づくりににも取り組めることになりました。このように周辺地域をつなぐ中核的役割を求められる状況は、本市にとって飛躍の好機といえます」(高橋市長)

高岡駅と新高岡駅との間(約1.5km)のアクセスについては、高岡駅と城端(南砺市)を結ぶ城端線が新高岡駅近くで交差していることから、城端線にも新高岡駅を設置。列車・バスでのアクセスが可能になるとともに、新高岡駅を拠点にした砺波市や南砺市への交通アクセスも飛躍的に便利になる。さらに高岡駅で接続する氷見線や北陸本線、路面電車・万葉線を考慮すれば、城端線・新高岡駅の設置は市長の発言にあった「新幹線の沿線と本市の周辺地域を結ぶ新たな交通拠点としての

地域を結ぶ新たな広域交通拠点としての役割、具体的には飛越能地域(飛騨・越中・能登地域)の玄関口としての役割も求められております。また愛知県一宮JCTから岐阜県を経由して小矢部砺波JCT(富山県)に至る東海北陸自動車道、輪島IC(石川県)から高岡市を経由して小矢部砺波JCTに至る能越自動車道などの高速道路網と新幹線を組み合わせることで、富山県内外への結節点であることを生かした、より有機的なまち



加賀前田家3代当主・前田利常が建立した「国宝・瑞龍寺」

役割」を十二分に発揮する要因となるのが容易に推測される。また高岡駅と新高岡駅の間に国宝・瑞龍寺や国史跡・前田利長墓所などの有力な観光資源があることから、歩行者・自転車による動線も今後確保していく予定だという。

1日の乗降客数4000人を想定している新高岡駅舎は概ね完成しており、取材時にも「飛越能の歴史を継承する」というデザインコンセプトの外観が既に見えていた。瑞龍寺の回廊や縦格子を意識した外観デザインはモダンかつシック、内装には伝統技術や飛越能地域の木材なども随所に使われるというから開業が楽しみだ。

駅周辺の駐車場は平面・立体を合わせて

800台分を確保、改札口前には飛越能地域の広域観光情報スペース、伝統工芸などの地場産品展示スペース、各種テナントスペースが設けられる予定だ。

新高岡駅周辺には既に多くの飲食店や物流量販店がオープンしている。また新高岡駅のさらに南側に位置する県内最大級の商業施設・イオンモール高岡(平成14年オープン)が開業以来の大改装を行い、新高岡駅のデザインを意識した外装が出来上がりつつあるなど、周辺の動きも活発化している。高岡駅と並ぶ高岡市の玄関口ツートップ、飛越能地域の新しい玄関口として、広域観光振興をはじめ高岡市と周辺地域の活性化のスプリングボードとしての役割が期待される北陸新幹線・新高岡駅の勇姿を見られる日も近い。

文化創造都市高岡の実現に向けて

新幹線停車駅の開業がもたらすインパクトは多様な形で現れる。新幹線停車駅ができたことで飛躍的に発展する都市もあれば、新幹線のインパクトを受け止めるだけの地域力が足りない、いわゆる「通過駅状態」と化してしまうケースも少なくない。そういう意味で新幹線開業には、停車駅を持つ都市の地域力が根底から問い直される怖さもある。北陸新幹線の開業(長野から先の区間)は日本の鉄道網にとって「九州新幹線以来4年ぶりの新規開業路線」となるため、そういう意味でも各

方面から熱い注目を集めている。

高岡市においてはこれまで述べてきたように、新幹線開業を地域活性化の新たなスプリングボードととらえ、積極的なまちづくり計画が進められている。だがそうしたハード面におけるインパクトばかりでなく、ある意味でそれ以上に期待されているのが、ソフト面(伝統的地場産業も含めた芸術文化面)の活性化における波及効果だ。同様のことがやはり北陸新幹線停車駅となる県都・富山市や、高岡市とは同じ旧加賀藩の中心地でもあった金沢市にもいえるが、地理的に非常に近い高岡市・富山市・金沢市にはそれぞれ独自の歴史文化の蓄積がある。北陸新幹線の開業は、高岡市におけるその歴史的・文化的独自性を改



地場産業のアルミ鍋、銅鍋で新鮮な魚介や野菜を楽しむ「日本海高岡なべ祭り」(毎年1月開催)

めて発信する一つの大きなチャンスであるのは事実で、従来から活性化（イノベーション）への取り組みが盛んにされてきた铸件（銅製品、アルミニウム製品など）や漆器などのものづくり産業の従事者を中心に、この好機にさらなる発信力の醸成を図る気運が大きく盛り上がりつつある。

高岡市ではこの機

をとらえ、地場産業の活性化とともに、文化、芸術、観光などに多分野にわたる活性化施策を推進するため、平成25年4月に文化創造都市高岡推進懇話会を設置。翌平成26年度中には懇話会からの提言を基に文化創造都市高岡推進ビジョン（案）を策定し、平成27年度から本格的に取り組もうとしている。

「高岡市は前田利長公による高岡城とその城下町の建設以来、都市として約400年間の歴史の積み重ねがあるわけですが、さらにそれ以前の天平時代に越中の国府が置かれていた高岡は、万葉集に多く詠まれた名勝地・景勝地でもありました。そうした歴史的文化的背景から醸成されてきた文化力を活用し、現代において新しい価値や文化、産業を創出



北陸新幹線の車両模型を展示中の「高岡駅交通広場」



伝統産業に従事する練達の職人さんから授業で学んだ小学生たちの作品展（市立美術館）



高岡大仏と通称される大佛寺の銅造阿弥陀如来坐像（市指定文化財）は高岡銅器職人たちの技術の結晶（1933年製造）

多様な地域資源を活用し、新たな価値、文化、産業を創出・発信

折しも北陸新幹線開業直後の3月29日および30日の2日間、日本を代表する文化人、知識人、芸術家などが、日本文化の深まりと広がりを目指す集まったボランティア集団「エンジン01文化戦略会議」主催のオープンカレッジセミナーが、高岡市のウイング・ウイング高岡を会場に開催される。同イベントでは各界の一流講師が「知と文化」に関するさまざまな分野の講座やワークショップを行う。

異分野の専門家たちが自由な意思で集まり、相互に学び合い、新時代の文化創造を目



高岡市デザイン・工芸センターの鋳物設備で作品作りに励む若手技術者

指すという「エンジン01文化戦略会議」のコンセプトは、高岡市の文化創造のコンセプトとも一致する。

高岡市は、文化創造に向けたコンセプトを、高岡における3つの文化力「多様な文化の存在」「文化多様性(Art)」「ものづくりのまちとしての歴史・伝統(Craft)」豊かな環境・市民性(City)」を基礎とした創造的な活動が行われる都市の実現とし、その都市イメージを「Art & Craft City 高岡」としている。

高岡市では、伝統産業に若手技術者やクリエイターが増えており、高岡市の鋳物産業(銅製品、アルミニウム製品)や漆器産業などを基礎に据えながら新しい商品産業を生み出す新たな力として自由闊達なアート感覚の製品を多彩に生み出しつつある。また、市内に2つある重要伝統的建造物群保存地区(山町筋、金屋町)が代表する近世町人(町衆)文化の蓄積、前述した国宝・瑞龍寺や国史跡・前田利長墓所など武家文化の



藤子・F・不二雄氏の故郷・高岡ならではの「銅製ドラえもんポスト」(高岡駅交通広場)

記憶、「おくのほそ道の風景地」の1つとして女岩が国の名勝に指定され、現在も親しまれている「雨晴海岸」などの景勝地、万葉集とその時代について深く探究するための施設「高岡市万葉歴史館」の存在など、実に多彩な地域資源にも支えられている。

また、高岡市は漫画家藤子・F・不二雄氏のふるさとであり万葉線のドラえもんトラムやドラえもんポスト(高岡銅器で製作)、ドラえもんの散歩道、ドラえもんの空き地など、藤子先生のキャラクターに会えるまちでもある。同時に「鋳物産業や漆器産業などから輩出されつつある、地場産業の枠組みを超える技量や発想力を持つ若い技術者たちの存在は、まさに高岡市の新たな地域資源を代表するもの」(高岡市長)だ。

高岡市が目指す文化創造の推進は、それら新旧の地域資源の特性を活かした活用・発信への取り組みと、北陸新幹線開業のインパクトをいかに効果的にわがものにでき



鋳物工房や漆器工房などを見学・体験するクラブツーリズムや市場街ツアー(1泊)は人気上昇中



るかにかかっている。目前に迫る「平成27年3月14日」以後の高岡市の躍動が、なお一層、注目される。

(取材・文 遠藤 隆／取材日 平成26年12月17日)